

着実な道路ネットワーク整備で暮らしを豊かにします

国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本である高速道路。いまや日々の暮らしになくてはならない存在です。道路整備は、輸送コストを下げ、交通事故を減らすなどの直接的メリットだけでなく、バランスのとれた地域社会の発展ももたらします。私たちは道路整備を担当する会社として、真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくという使命をしっかりと果たします。

高速道路ネットワークの整備

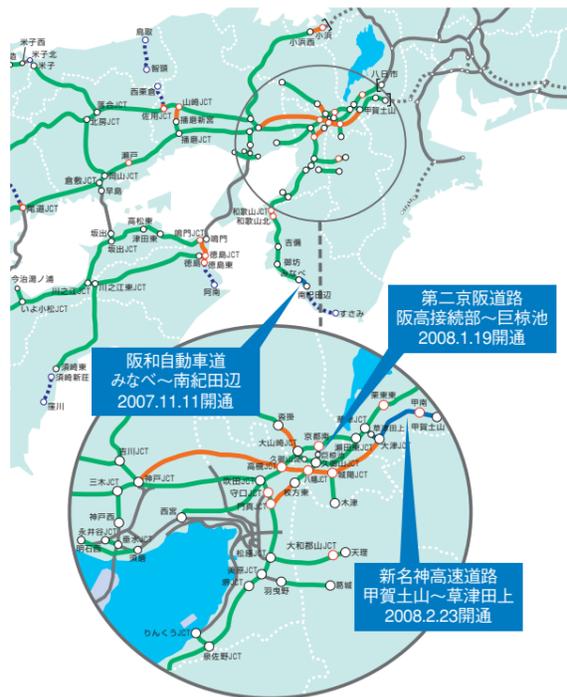
NEXCO西日本は、高速道路ネットワークで各地域をつなぐことにより、地域間の連携に貢献しています。高速道路ネットワークを整備することは、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。現在、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2010年度までの開通予定延長は107kmで、2007年度は阪和自動車道、新名神高速道路、第二京阪道路の3区間35kmが開通しました。また、2008年度は東九州自動車道の1区間13kmが開通しました。

2007～2010年度 開通予定区間

年度	開通区間	累計開通延長	
2007年度	阪和道 新名神 第二京阪	みなべ～南紀田辺 甲賀土山～草津田上IC 阪高接続部～巨椋池	35km (33%)
2008年度	東九州道	津久見～佐伯	48km (45%)
2009年度	山陰道 第二京阪 佐世保道路	斐川～出雲 枚方東～門真JCT 佐世保～佐世保みなと	81km (76%)
2010年度	東九州道 東九州道	門川～日向 高鍋～西都	107km (100%)

2007年度開通区間概要図



既存ネットワークの機能向上

◆4車線化事業の展開

4車線化により、交通集中による渋滞が解消し、観光地などへのアクセスのやすさが向上するとともに、制限速度上げや上下線分離構造となることから、快適性や安全性が向上し、対面通行に比べて円滑な走行が可能になります。2010年度までに、高知自動車道、岡山自動車道の3区間21kmの完成を目指し、事業の全面展開および進捗を図っています。2008年度は高知自動車道の2区間16kmが4車線化され、川之江ジャンクション～高知インターチェンジまでがすべて4車線化されました。



4車線化が実現した高知自動車道

◆スマートICの導入

高速道路の利便性を向上するため、スマートインターチェンジ(IC)の整備を進めています。スマートICとは、ETC専用の簡易なインターチェンジのことで、ETCカードを持っている車両以外は出入りすることができません。スマートICを設置することで、既存の高速道路を積極的に活用できるようになり、地域活性化に貢献することができます。2007年度までに7カ所の本格導入および社会実験を実施しています。

お客さまの利便性向上

◆新名神高速道路(亀山JCT～草津田上ICの開通)

ネットワークの拡充

新名神高速道路の開通により、ネットワークが拡充され、名神高速道路の渋滞量、渋滞回数が、昨年比べてそれぞれ約8割、約7割減少しており、ネットワーク効果を発揮しています。

また、名神高速道路における重大事故、地震災害、降雪、集中工事などによる交通障害を受けた場合の代替道路として大きなリダンダンシー*を發揮できます。

走行環境の改善

新名神高速道路の開通により、並行する一般国道1号線では、著しかった渋滞・混雑がおおむね解消され、これにより一般国道での亀山市役所～草津市役所間(約60km)の所要時間は、開通前に比べて約30分短縮されています。

地域、医療の活性化への寄与

新名神高速道路の開通後、沿線観光施設の入り込み客数が増加傾向にあることが確認されており、広域的な交流が活性化されています。

また、搬送時間の短縮により、地域の救急医療に貢献しているほか、沿線地域の工場立地数が増加傾向にあり、地域の活性化にも寄与しています。

*リダンダンシーとは、自然災害などによる障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

◆阪和自動車道(みなべIC～南紀田辺IC)の開通

所要時間の短縮

阪和自動車道および田辺西バイパスを利用することにより、白浜温泉までの所要時間が、平日で約12分、休日で約11分短縮されました。

走行環境の改善

阪和自動車道開通後、一般国道42号線および県道35号線の交通量は減少傾向にあり、これにより主要な交差点での渋滞が緩和されています。

物流への貢献

紀南地域には、恵まれた観光資源や農林・水産物(南高梅、マグロなど)が多くあります。今回の開通により高速道路へのアクセスが向上することで、物流の効率化が図られ、地域産業の活性化および発展が期待されます。

◆地域への還元

新名神高速道路、阪和自動車道および東九州自動車道(津久見～佐伯)の開通にあたっては、地域の皆さまのご理解、ご協力により、当初計画より早期に開通することができました。これに伴い、地域の皆さまへの感謝とご利用促進のため、「早期開通割引」を期間限定で実施しました。

道路の耐久性向上

NEXCO西日本では、高品質で耐久性に優れた高速道路をより経済的に、また、安全・確実に建設するため、品質管理マネージャーを配置し、工事管理体制を強化するとともに、道路の耐久性を向上させることを目的とした施策を推進しています。



品質管理実施状況

Staff's Voice

新名神開通に向けた情報発信について

新名神高速道路の建設が進むに従い、小学生から高齢者まで幅広い年代の方に現場見学の申し込みをいただき、関心の高さを実感しました。見学会では、高速道路の安全性・快適性・利便性といった開通の整備効果とともに、環境への配慮、工事の安全などの取り組みについて十分理解していただけたと思います。

また、開通直前には沿線各市と連携したイベントや、マスメディアによる情報発信を積極的に行ったことで、開通に向けた高まりが大きくなったと感じています。



中国支社 三次管理事務所 副所長
(元関西支社大津工事事務所副所長)
鈴木 正範

地域とともに大規模災害に備えます

高速道路は、自動車輸送を支えるという平常時の役割だけではなく、ひとたび大規模災害が発生した際にも頼れるライフラインであり続ける必要があります。これまでも、大規模災害発生時にその復興に対してしっかり役割を果たしてきました。私たちは道路を支えるプロとして、さらに防災体制の充実に努めます。

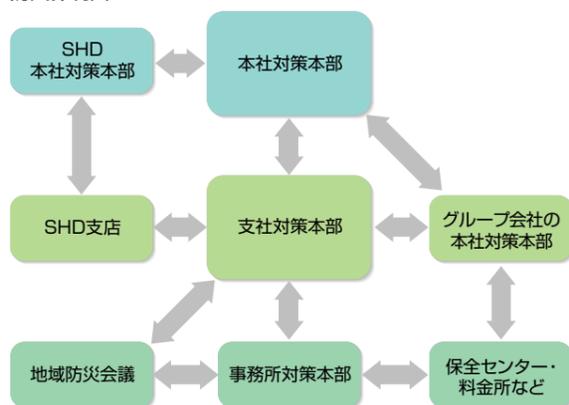
防災体制

NEXCO西日本グループでは、過去に経験したことのないような地震や自然災害が発生した場合にも、道路機能を可能な限り迅速に回復し、安全・安心な道路空間を提供することを目的とした防災体制の構築を目指しています。

特に西日本地域の災害特性として、内陸直下型地震や集中豪雨などへの備えが必要となるため、過去の災害事例を精査し、最新の知見に基づく磐石な体制づくりを進めています。

災害が発生した場合や、災害が発生する恐れがある場合は、その災害事象の規模に応じて「非常災害対策本部」を設置し、グループが総力を挙げて災害応急対策活動にあたります。

防災体制図



地域防災会議への参画

地震などの有事の際には、近隣自治体との連携が不可欠となります。NEXCO西日本では、高速道路沿線の地元自治体に設置されている地域防災会議に順次加入し、連絡体制などを確立するとともに、より密接な相互協力体制の構築を図っています（現在292会議中、102会議に加入）。

地域防災会議加入状況（2008年7月現在）

加入状況	加入済	未加入	計
会議数	102	190	292

防災訓練の実施

地震や自然災害などが実際に起こった場合、防災体制の下に迅速かつ的確に対応できることを目指し、グループ全体で訓練を実施しています。

内陸直下型地震など各種災害を想定した訓練や連絡体制の再確認、非常体制の円滑な運営を図るため実践的、効果的な訓練を行い、防災体制の問題点抽出とその実効性を検証しています。

また、防災週間、道路防災週間の期間中は、ポスターの掲示、小冊子の配布、「防災週間」および「防災の日」の広報を行い、防災意識の高揚と普及に努めています。



防災訓練



大規模事故を想定した訓練

防災資機材備蓄の実施

災害発生時における応急復旧や復旧作業の際には、高速道路などの交通確保に必要な交通規制材や土のうなどの資機材を速やかに確保する必要があります。NEXCO西日本グループでは、各事務所の防災業務実施規則に基づき、防災上必要な資機材を備蓄しています。また、災害発生時に協力していただく応援会社を確保、応援会社の保有する資機材や搬送方法などの把握に努めています。

地域と一体となり活性化支援と協働を促進します

NEXCO西日本グループは、地域と密着した社会資本である高速道路を担う企業としてステークホルダーの信頼構築のためにさまざまな経営資源を活用した取り組みを進めています。高速道路沿線地域を中心に幅広い活性化支援や連携・協働の取り組みを推進しています。喜んでいただける皆さまの笑顔が、私たちの励みです。

出張講座（教育支援）の実施

NEXCO西日本グループでは、子どもたちの教育支援も重要な課題ととらえ、積極的に取り組んでいます。例えば、社員などが沿線の小学校などにお伺いして出張講座を実施することで、教育のお手伝いをしています。このような出張講座においては、社員が「高速道路」をテーマに直接手作りで教材を作って支援するなどの工夫もしています。



出張講座の様子

高速道路施設の沿線地域との一体利用

高速道路施設を沿道住民の方々と一緒に維持管理することにより、メリットを享受していただくという取り組みを関係自治体やNPOの力をお借りして始めています。

名神高速道路が通過する京都市深草地域では、環境ボランティア団体「名神深草森の会」と協働して、道路の盛土斜面を地域の皆さまの意見を反映して維持管理することで愛着を持っていただくという取り組みがスタートしています。



地域住民と一体となって盛土斜面を維持管理

地域の清掃活動への積極的な参加

西日本各地にあるNEXCO西日本グループの各出先機関では、地域の清掃活動にも積極的に参加しています。例えば、鳥取工事事務所では鳥取砂丘の清掃活動に有志社員が参加し、美化推進とともに地域との連携を推進しています。



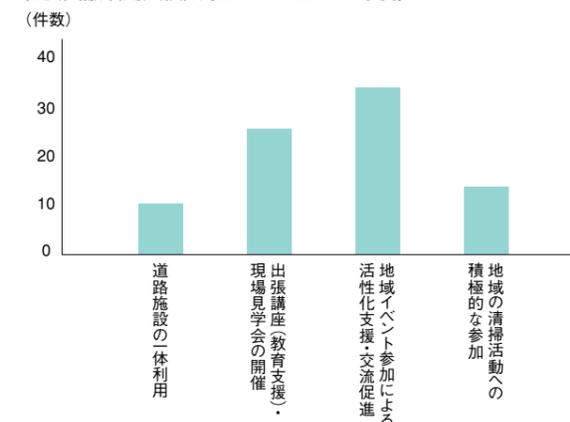
鳥取砂丘の清掃活動

地域イベント参加による活性化支援・交流促進

高速道路は、地域に密着した国民の日々の暮らしを支える公共資本です。この高速道路を事業の中心に据える企業として、沿線地域にお住まいの皆さまと良好な関係を築くことはきわめて重要なことと考えています。地域の活性化に貢献するとともに、事業についての理解を深めていただくため、さまざまな機会を活用して地域との交流を促進しています。

具体的には、地域で開かれるイベントに企業参加したり、地域にお住まいの方々や高速道路をご利用されるお客さまに参加していただくイベントを開催したりしています。

社会貢献活動実績数（2006～2007年度）



※同一事業所で2回以上の取り組みは1としてカウント